

2014/2/6

柏の景気情報（平成27年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年1月分）

○ 調査期間：平成27年1月19日～1月28日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	82	52.6%
建設	44	25	56.8%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年1月の調査結果のポイント】

《業況DIは改善するも、コスト増や個人消費の回復力の弱さから、先行きも慎重な見方》

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲32.1)となり、マイナス幅が7.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲22.2)であり、22.2ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲54.1(同▲68.0)である。変わらない業種は、サービス業▲13.3(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲20.0(同▲15.3)である。

【建設業】からは、「省エネエコポイントが復活」(一般土木建築工事業)、「例年、3月決算の元請が多く、1～2月は仕上げ業者は忙しいが、今年は大型物件も無く、あれこれ掻き集めている状態です」(石工れんがタイルブロック工事業)、「10年ぐらい前まではお正月前の畳工事の依頼が多く、12月分の売上は良かったのですが、最近では11月の方が個人消費は活発な気がします。1月、2月は畳小物の在庫づくりに専念します」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「休日数が多いのと従業員がインフルエンザで休みが数名あったため、製造に支障があり売上の減少となった」(その他の金属製品製造業)、「売上低迷。盛り上がりせず」(紙製容器製造業)、「製造品の消費は引き続き堅調」(酒類製造業)、「前年度の売上は前々年度より少し上昇したが、利益ベースは減少結果であった。在庫管理を徹底して売上に繋がらない部分の仕入チェックを厳しくする必要があると感じた」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「元旦の初売りは、動員・売上ともに好調。高額品の福袋なども動きが良かった。セールについては、婦人衣料や雑貨は前年並みに推移も紳士・子ども衣料品は苦戦。中盤以降は、春物商材の動きを期待するも前年に比較すると動き始めは遅い。宝飾・時計などの高額品は、前年の増税反動はあるものの時計は好調に推移」(百貨店)、「衣料品が全体的に不調。『売り尽くし』でどこまで取り戻せるか」(その他の各種商品小売業)、「青果物は冷え込みが野菜の消費に若干反応した感があります。鍋物などの商材の動きが昨年の相場を戻して取引しています。しかし、全てが順調でもなく、根菜類は低迷状況にあります。果実は現状維持の状況で取引されています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは「法人需要では、次年度案件の引き合いが多い中、年度内案件の引き合いも活性化。北陸新幹線を絡めた職場旅行の問い合わせが増加。個人需要では、9月シルバーウィークのハワイ早期申込者が多い。特に60歳代夫婦やグループ。3月で運行終了の「北斗星」とその影響で「カシオペア」が人気。大阪にあるテーマパークの先行入場(アーリーパークイン)商品が相変わらず大人気」(旅行業)、「全体的には消費税アップによる影響が顧客クライアントの広告出稿量減少に繋がっている。ただ、その中でもマンション販売の広告出稿が比較的堅調である」(広告代理業)、「1月中旬から賃貸マンションの問い合わせが増えています。市に学区等の整備をしっかりと行って欲しい」(不動産賃貸業)、「お客様からの問い合わせは順調に入っています。建築費の上昇等で採算は悪化しています。見通しは横ばいか、やや低下です」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

「徐々に景気が良くなってきた感はあるが、材料の値上がりと共に雑費(保険料等の改定)の増加で賃金は上がっていない」(電気工事業)、「原材料価格の高騰や円安による海外の加工費の上昇などにより、収益を圧迫する要素は残っており油断できない状況である」(その他の機械・同部品製造)などのコメントが寄せられた。

◎冬物衣料苦戦

「冬物衣料の売れ行きが悪く、過剰在庫になっている。天候、気温には恵まれていたが、売れる物が無い状態です」(その他の各種商品小売業)、「11月中旬より悪化傾向が顕著になり、いまだに引きずっている感が強い。メーカー・問屋ともに良いという話は聞かない。客単価はそれ程落ち込んでいないが、客数の減少がマイナス要因と思う。冬物売り尽くしセールも今いち盛り上がりせず」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安

「2月以降、宴会の予約が少なくなっています。不安です」(酒場・ビアホール)、「毎年恒例、年度末事業が忙しく先行き不安は隠せない状況」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
見通し	▲18.2	▲16.0	▲5.5	▲29.1	▲20.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24. 3(前月水準▲32. 1)となり、マイナス幅が7. 8ポイント縮小した。

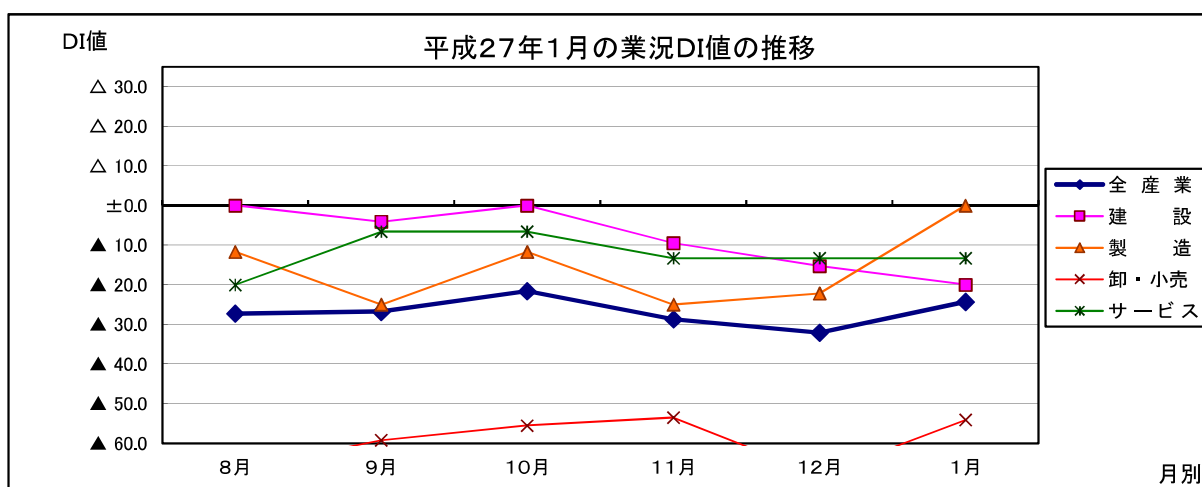
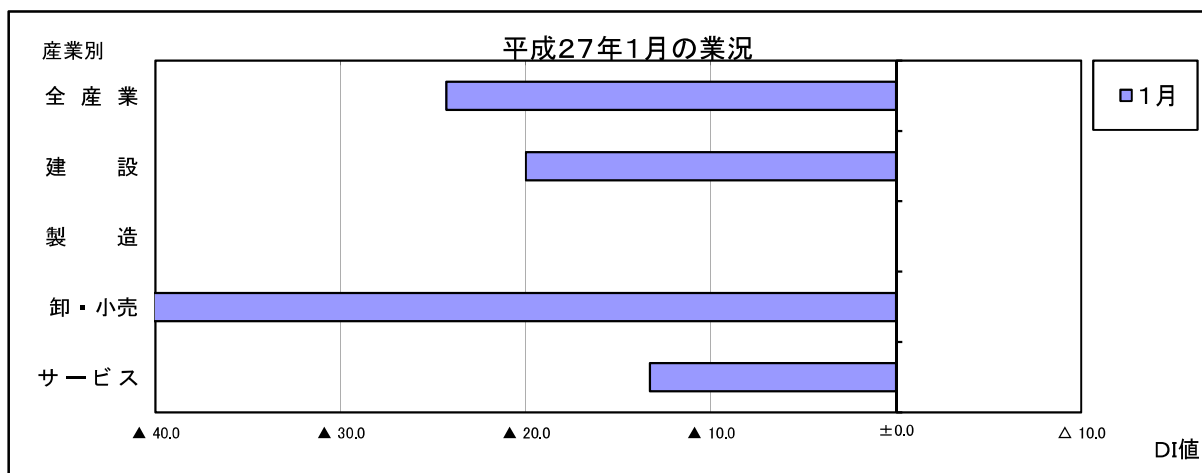
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0. 0(同▲22. 2)であり、22. 2ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲54. 1(同▲68. 0)である。変わらない業種は、サービス業▲13. 3(同▲13. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲20. 0(同▲15. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18. 2(前月水準▲21. 4)となり、マイナス幅が3. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29. 1(同▲44. 0)、製造業▲5. 5(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20. 0(同▲6. 6)、建設業▲16. 0(同▲15. 3)である。

平成27年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲27.3	▲26.8	▲21.6	▲28.7	▲32.1	▲24.3	▲18.2(▲21.4)
建設	±0.0	▲4.1	±0.0	▲9.5	▲15.3	▲20.0	▲16.0(▲15.3)
製造	▲11.7	▲25.0	▲11.7	▲25.0	▲22.2	±0.0	▲5.5(▲11.1)
卸・小売	▲66.6	▲59.2	▲55.5	▲53.5	▲68.0	▲54.1	▲29.1(▲44.0)
サービス	▲20.0	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲13.3	▲13.3	▲20.0(▲6.6)



【平成27年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅が5.6ポイント拡大した。

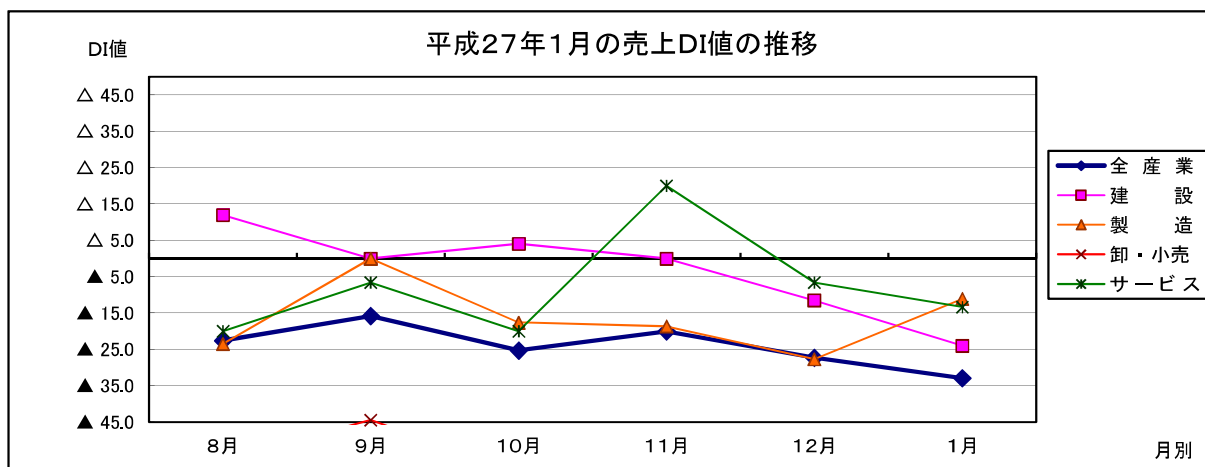
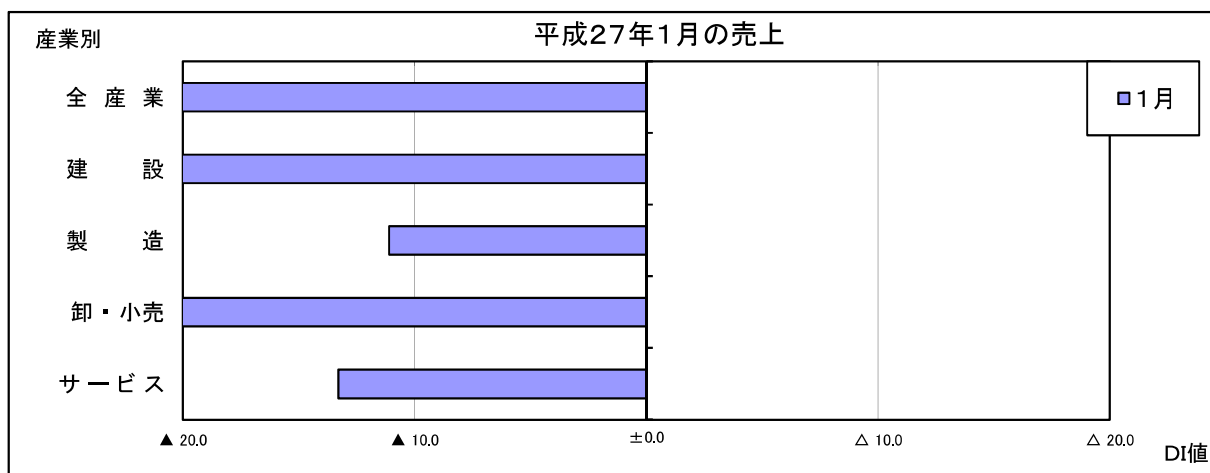
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲70.8(同▲56.0)、建設業▲24.0(同▲11.5)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.2(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が8.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△16.0(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△11.1(同▲16.6)であり、27.7ポイントと大幅に改善する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△6.6(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲32.0)である。

平成27年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲22.6	▲15.8	▲25.3	▲20.0	▲27.3	▲32.9	▲1.2(▲9.5)
建設	△12.0	±0.0	△4.1	±0.0	▲11.5	▲24.0	△16.0(±0.0)
製造	▲23.5	±0.0	▲17.6	▲18.7	▲27.7	▲11.1	△11.1(▲16.6)
卸・小売	▲55.5	▲44.4	▲59.2	▲57.1	▲56.0	▲70.8	▲33.3(▲32.0)
サービス	▲20.0	▲6.6	▲20.0	△20.0	▲6.6	▲13.3	△6.6(△20.0)



【平成27年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.0(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が10.5ポイント拡大した。

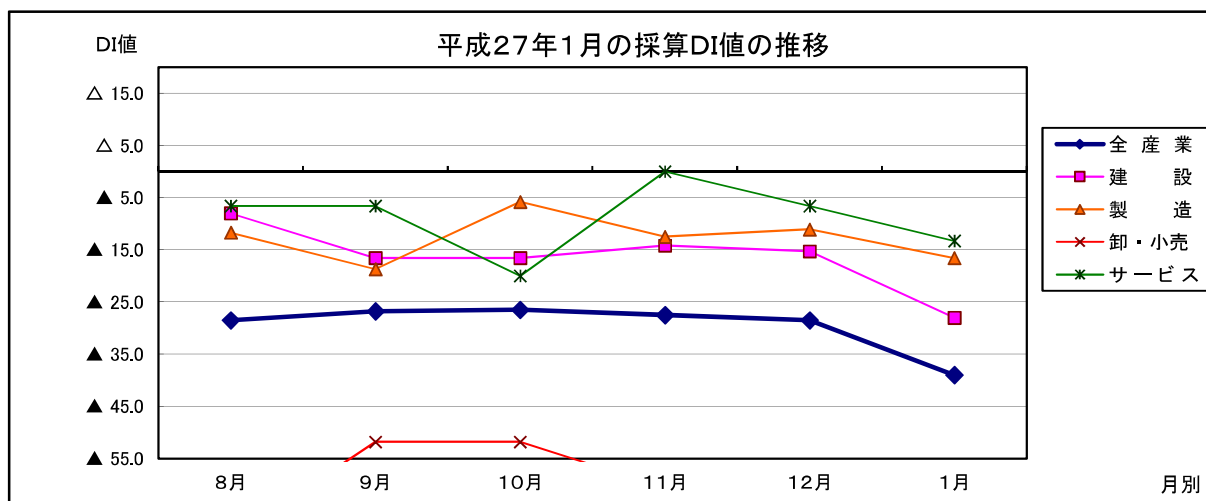
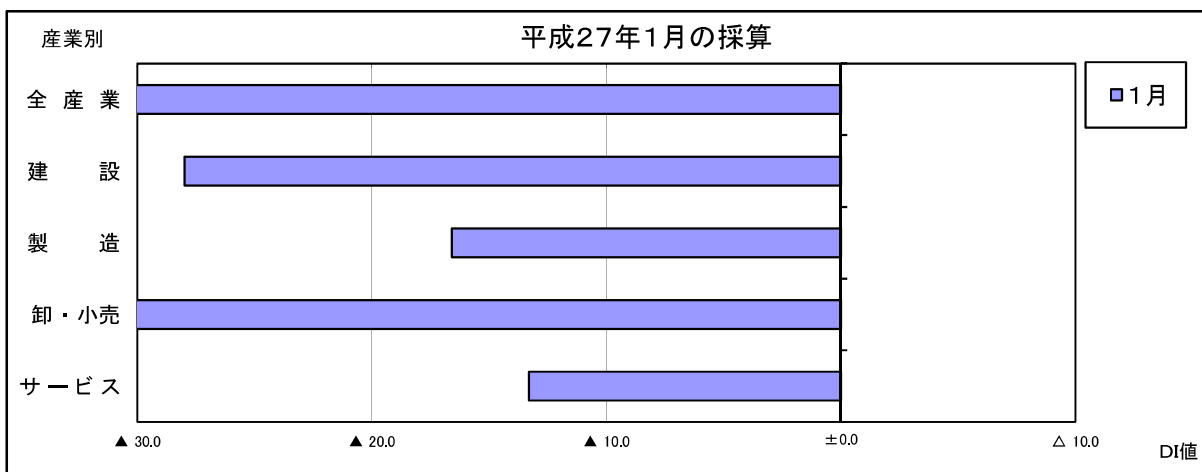
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が拡大しており、幅の大きい順に、卸小売業▲83.3(同▲68.0)、建設業▲28.0(同▲15.3)、サービス業▲13.3(同▲6.6)、製造業▲16.6(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.2(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0.0(同▲11.5)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲50.0(同▲40.0)である。

平成27年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲28.5	▲26.8	▲26.5	▲27.5	▲28.5	▲39.0	▲18.2(▲16.6)
建設	▲8.0	▲16.6	▲16.6	▲14.2	▲15.3	▲28.0	±0.0(▲11.5)
製造	▲11.7	▲18.7	▲5.8	▲12.5	▲11.1	▲16.6	▲11.1(▲11.1)
卸・小売	▲70.3	▲51.8	▲51.8	▲60.7	▲68.0	▲83.3	▲50.0(▲40.0)
サービス	▲6.6	▲6.6	▲20.0	±0.0	▲6.6	▲13.3	▲6.6(△6.6)



【平成27年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.0(前月水準▲47.6)となり、マイナス幅が8.6ポイント縮小した。

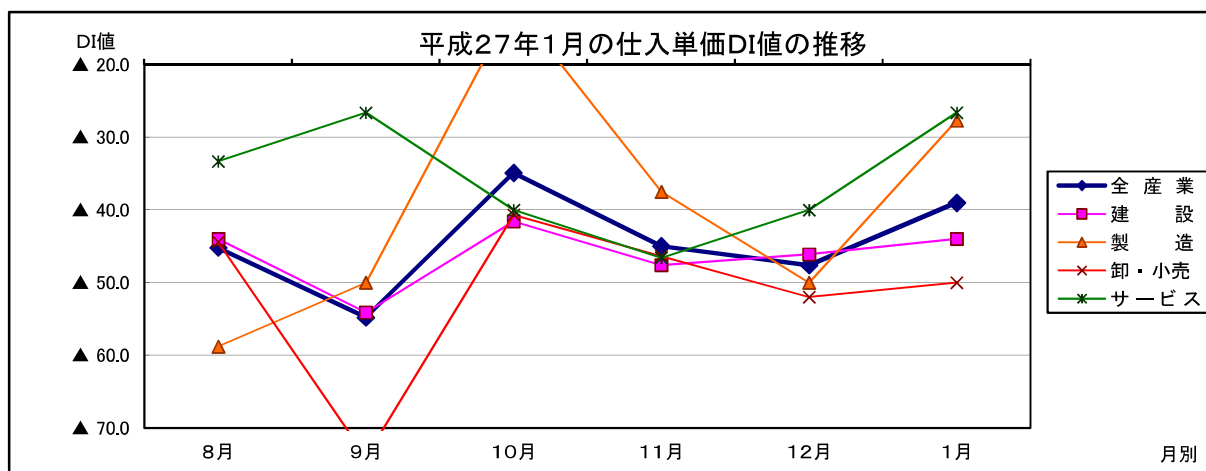
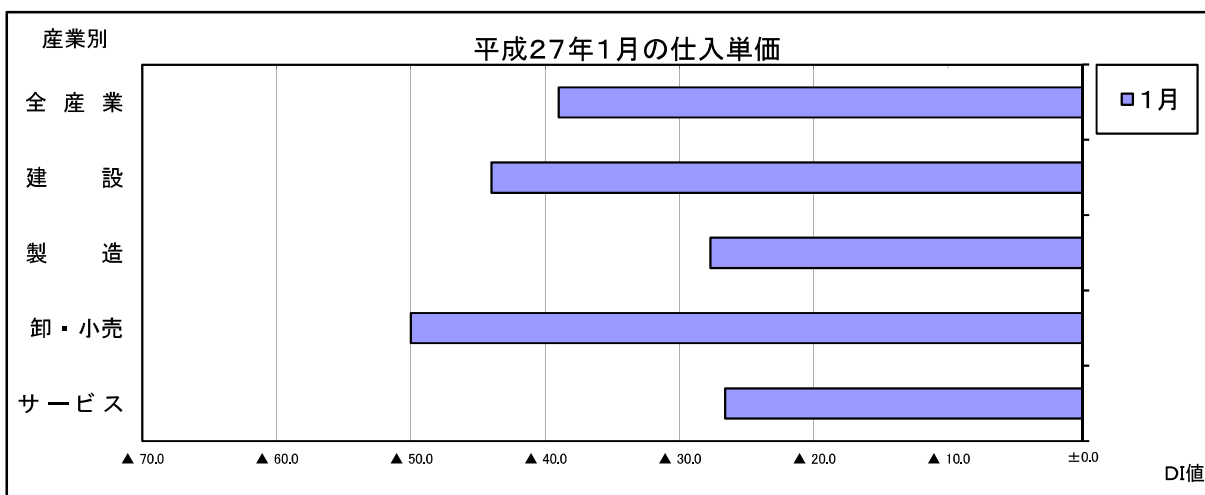
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小し、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲50.0)、サービス業▲26.6(同▲40.0)、建設業▲44.0(同▲46.1)、卸小売業▲50.0(同▲52.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.7(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲40.0)、建設業▲36.0(同▲42.3)、製造業▲22.2(同▲27.7)であり、特に、サービス業では、マイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲41.6(同▲36.0)である。

平成27年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲45.2	▲54.8	▲34.9	▲45.0	▲47.6	▲39.0	▲31.7(▲36.9)
建設	▲44.0	▲54.1	▲41.6	▲47.6	▲46.1	▲44.0	▲36.0(▲42.3)
製造	▲58.8	▲50.0	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲27.7	▲22.2(▲27.7)
卸・小売	▲44.4	▲74.0	▲40.7	▲46.4	▲52.0	▲50.0	▲41.6(▲36.0)
サービス	▲33.3	▲26.6	▲40.0	▲46.6	▲40.0	▲26.6	▲20.0(▲40.0)



【平成27年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.4(前月水準△4.7)となり、プラス幅が2.3ポイント縮小した。

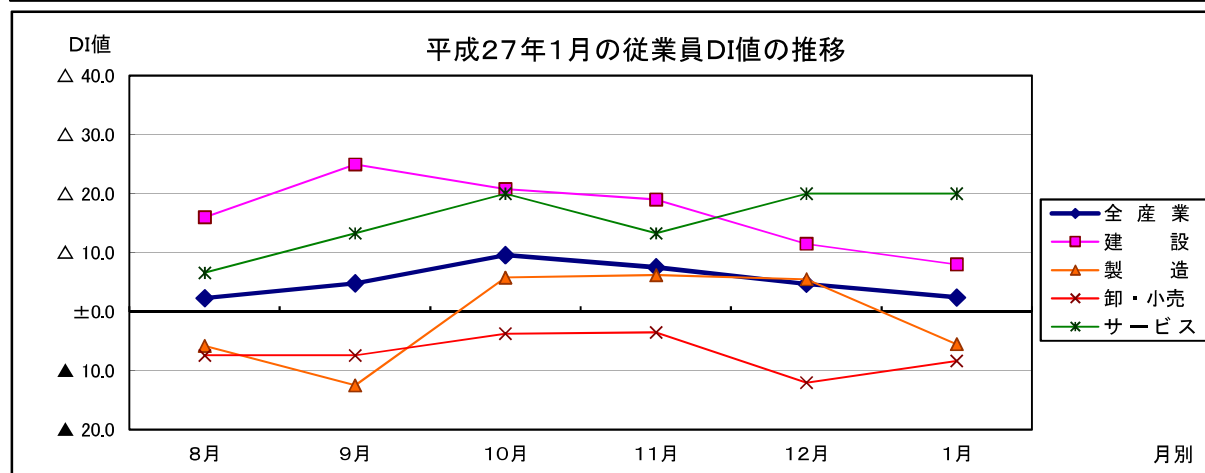
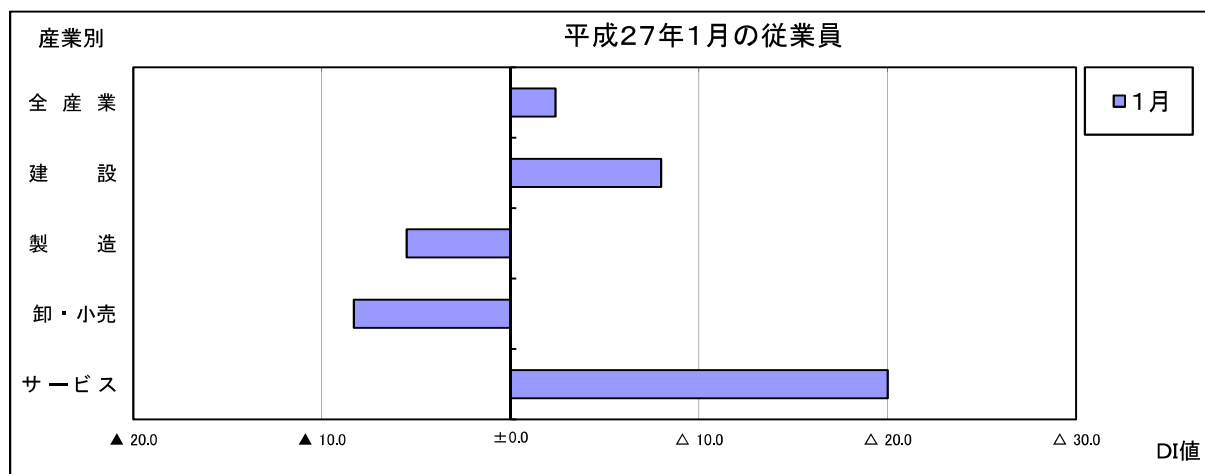
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲8.3(同▲12.0)である。変わらない業種は、サービス業△20.0(同△20.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.0(同△11.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.5(同△5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.8(前月水準△7.1)となり、プラス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲4.1(同▲12.0)である。変わらない見通しの業種は、サービス業△20.0(同△20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△11.1)、建設業△8.0(同△15.3)である。

平成27年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	△2.3	△4.8	△9.6	△7.5	△4.7	△2.4	△4.8(△7.1)
建設	△16.0	△25.0	△20.8	△19.0	△11.5	△8.0	△8.0(△15.3)
製造	▲5.8	▲12.5	△5.8	△6.2	△5.5	▲5.5	±0.0(△11.1)
卸・小売	▲7.4	▲7.4	▲3.7	▲3.5	▲12.0	▲8.3	▲4.1(▲12.0)
サービス	△6.6	△13.3	△20.0	△13.3	△20.0	△20.0	△20.0(△20.0)



【平成27年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.9(前月水準▲5.9)となり、マイナス幅が5.0ポイント拡大した。

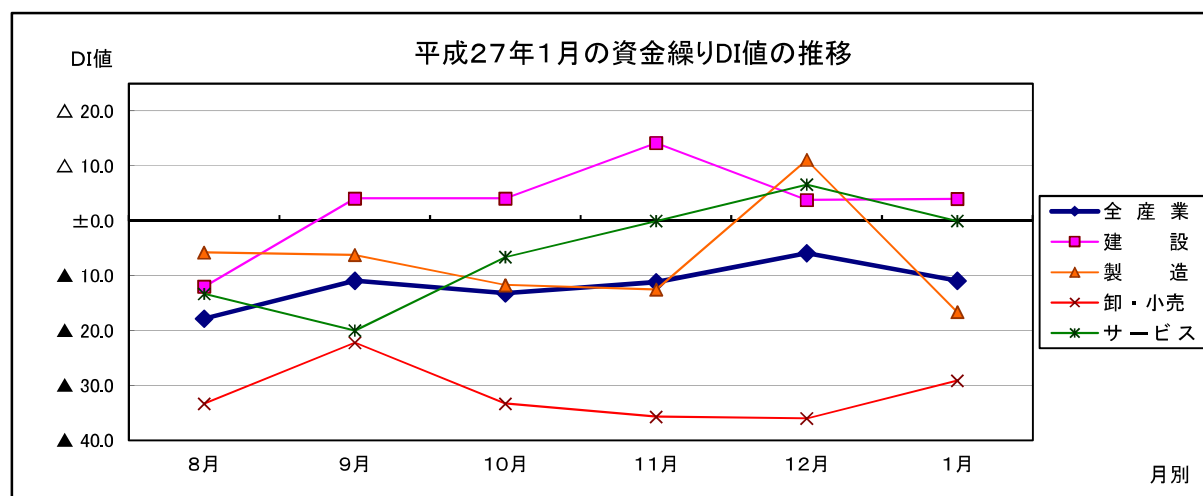
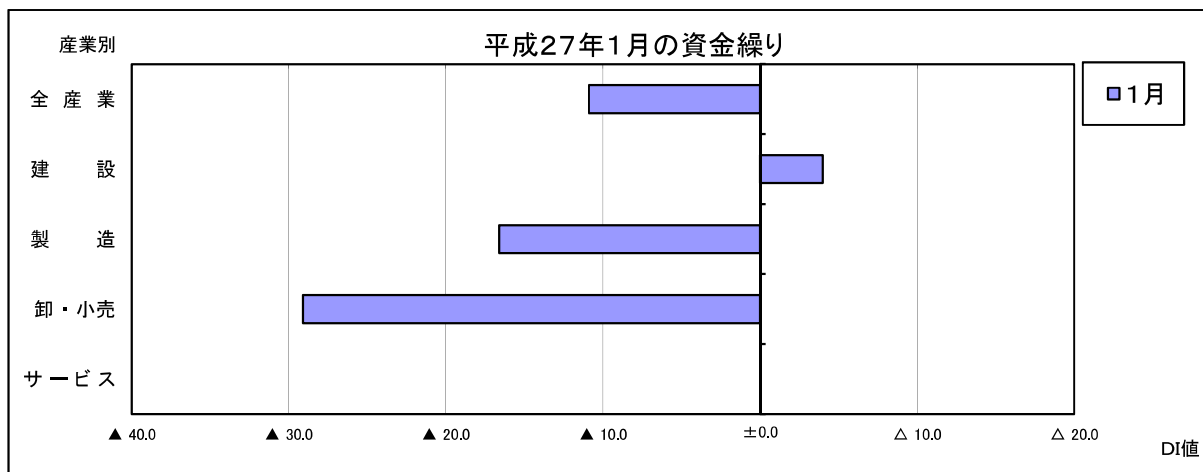
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△4.0(同△3.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲29.1(同▲36.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲16.6(同△11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.9(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲36.0)である。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲5.5)である。

平成27年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 8月	9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲17.8	▲10.9	▲13.2	▲11.2	▲5.9	▲10.9	▲10.9(▲9.5)
建設	▲12.0	△4.1	△4.1	△14.2	△3.8	△4.0	±0.0(±0.0)
製造	▲5.8	▲6.2	▲11.7	▲12.5	△11.1	▲16.6	▲16.6(▲5.5)
卸・小売	▲33.3	▲22.2	▲33.3	▲35.7	▲36.0	▲29.1	▲20.8(▲36.0)
サービス	▲13.3	▲20.0	▲6.6	±0.0	△6.6	±0.0	▲6.6(△13.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 32.9	▲ 1.2	▲ 39.0	▲ 18.2	▲ 39.0	▲ 31.7	△ 2.4	△ 4.8
建設	▲ 24.0	△ 16.0	▲ 28.0	±0.0	▲ 44.0	▲ 36.0	△ 8.0	△ 8.0
製造	▲ 11.1	△ 11.1	▲ 16.6	▲ 11.1	▲ 27.7	▲ 22.2	▲ 5.5	±0.0
卸・小売	▲ 70.8	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.6	▲ 8.3	▲ 4.1
サービス	▲ 13.3	△ 6.6	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 26.6	▲ 20.0	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 18.2	▲ 10.9	▲ 10.9
建設	▲ 20.0	▲ 16.0	△ 4.0	±0.0
製造	±0.0	▲ 5.5	▲ 16.6	▲ 16.6
卸・小売	▲ 54.1	▲ 29.1	▲ 29.1	▲ 20.8
サービス	▲ 13.3	▲ 20.0	±0.0	▲ 6.6

【平成27年1月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業 種
建設	省エネエコポイントが復活。	住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	例年、3月決算の元請が多く、1～2月は仕上げ業者は忙しいが、今年は大規模物件も無く、あれこれ掻き集めている状態です。	大型案件の減少	石工れんが・タイル・ブロック工事業
	徐々に景気が良くなってきた感はあるが、材料の値上がりと共に雑費（保険料等の改定）の増加で賃金は上がっていない。	緩やかな景気上昇 原材料費高騰 コスト（保険料）増加	電気工事業
	10年ぐらいい前まではお正月前の雪工事の依頼が多く、12月分の売上は良かったのですが、最近では11月の方が個人消費は活発な気がします。1月、2月は量小物の在庫づくりに専念します。	量小物	内装工事業
	年末に掛けて売上高、収益ともに順調に推移してきたものの、依然として価格競争は厳しい。原材料価格の高騰や円安による海外の加工費の上昇などにより、収益を圧迫する要素は残っており油断できない状況である。	売上・収益好調 原材料費高騰 円安の影響	その他の機械・同部品製造業
製造業	休日数が多いのと従業員がインフルエンザで休みが数名あったため、製造に支障があり売上の減少となった。	売上減少	その他の金属製品製造業
	売上低迷。盛り上がらず。	売上低迷	紙製容器製造業
	前年度の売上は前々年度より少し上昇したが、利益ベースは減少結果であった。在庫管理を徹底して売上に繋がらない部分の仕入チェックを厳しくする必要があることを感じた。	採算の悪化 在庫管理の徹底	印刷業
	製造品の消費は引き続き堅調。	売上好調	酒類製造業
	元旦の初売りは、動員・売上ともに好調。高額品の福袋なども動きが良かった。セールについては、婦人衣料や雑貨は前年並みに推移も紳士・子ども衣料品は苦戦。中盤以降は、春物商材の動きを期待するも前年に比較すると動き始めは遅い。宝飾・時計などの高額品は、前年の増税反動はあるものの時計は好調に推移。	売上好調 冬物衣料苦戦 一部高額品好調	百貨店
卸・小売	冬物衣料の売れ行きが悪く、過剰在庫になっている。天候、気温には恵まれていたが、売れる物が無い状態です。	冬物衣料苦戦	その他の各種商品小売業
	衣料品が全体的に不調。「売り尽くし」でどこまで取り戻せるか。	冬物衣料苦戦	その他の各種商品小売業

【平成27年1月の業種別業界内トピックス】

サービス	青果物は冷え込みが野菜の消費に若干反応した感があります。鍋物などの商材の動きが昨年の相場を戻して取引しています。しかし、全てが順調でもなく、根菜類は低迷状況にあります。果実は現状維持の状況で取引されています。	一部商材好調	食料・飲料卸売業
	11月中旬より悪化傾向が顕著になり、いまだに引きずっている感が強い。メーカー・問屋ともに良いという話は聞かない。客単価はそれ程落ち込んでいないが、客数の減少がマイナス要因と思う。冬物売り尽くしセールも今いち盛り上がりません。	冬物衣料苦戦	婦人・子供服小売業
	2月以降、宴会の予約が少なくなっています。不安です。	問い合わせ件数減少 先行き不安	酒場・ビヤホール
	法人需要では、次年度案件の引き合いが多い中、年度内案件の引上げも活性化。北陸新幹線を絡めた職場旅行の問い合わせが増加。個人需要では、9月シルバークのハワイ早期申込者が多い。特に60歳代夫婦やグループ。3月で運行終了の「北斗星」とその影響で「カシオペア」が人気。大阪にあるテーマパークの先行入場(アリーバークイン)商品が相変わらず大人気。	次年度案件の活性化	旅行業
	全体的には消費税アップによる影響が顧客クライアントの広告出稿量減少に繋がっている。ただ、その中でもマージン販売の広告出稿が比較的堅調である。	増税の影響	広告代理業
	お客様からの問い合わせは順調に入っています。建築費の上昇等で採算は悪化しています。見直しは横ばいか、やや低下です。	問い合わせ件数増加 コスト(建築費)増 採算の悪化	不動産管理業
	1月中旬から賃貸マンションの問い合わせが増えています。市に学区等の整備をしっかりと行って欲しい。	問い合わせ件数増加	不動産賃貸業
	毎年恒例、年度末事業が忙しく先行き不安は隠せない状況。消費税は上がるも、賃金は抑えて。	先行き不安 増税の影響	ソフトウェア業

◎原材料費高騰

徐々に景気が良くなってきた感はあるが、材料の値上がりと共に雑費(保険料等の改定)の増加で賃金は上がっていない。

電気工事業

原材料価格の高騰や円安による海外の加工費の上昇などにより、収益を圧迫する要素は残っており油断できない状況である。

その他の機械・同部品製造業

◎冬物衣料苦戦

冬物衣料の売れ行きが悪く、過剰在庫になっている。天候、気温には恵まれていたが、売れる物が無い状態です。

その他の各種商品小売業

11月中旬より悪化傾向が顕著になり、いまだに引きずっている感が強い。メーカー・問屋ともに良いという話は聞かない。客単価はそれ程落ち込んでいないが、客数の減少がマイナス要因と思う。冬物売り尽くしセールも今いち盛り上がりず。

婦人・子供服小売業

◎先行き不安

2月以降、宴会の予約が少なくなっています。不安です。

酒場・ビアホール

毎年恒例、年度末事業が忙しく先行き不安は隠せない状況。

ソフトウェア業

平成27年1月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲25.9で柏の方がマイナス幅が1.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.9に対し、「CCI-LOBO」が▲19.6で柏の方がマイナス幅が13.3ポイント大きい。「柏の景気」と同じ数値の業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、建設業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.0に対し、「CCI-LOBO」が▲27.0で柏の方がマイナス幅が12.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.0に対し、「CCI-LOBO」が▲45.7で、柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.4に対し、「CCI-LOBO」が△12.6で柏の方がプラス幅が10.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、製造業、卸小売業ではそれぞれ10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.9に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が3.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業で、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

平成27年1月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.3	 ▲ 20.0	 ±0.0	 ▲ 54.1	 ▲ 13.3
CCI—LOBO	 ▲ 25.9	 ▲ 14.4	 ▲ 17.5	 ▲ 48.2	 ▲ 19.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.9	 ▲ 24.0	 ▲ 11.1	 ▲ 70.8	 ▲ 13.3
CCI—LOBO	 ▲ 19.6	 ▲ 9.3	 ▲ 8.8	 ▲ 42.5	 ▲ 13.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 39.0	 ▲ 28.0	 ▲ 16.6	 ▲ 83.3	 ▲ 13.3
CCI—LOBO	 ▲ 27.0	 ▲ 18.2	 ▲ 21.7	 ▲ 41.4	 ▲ 23.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 39.0	 ▲ 44.0	 ▲ 27.7	 ▲ 50.0	 ▲ 26.6
CCI—LOBO	 ▲ 45.7	 ▲ 56.8	 ▲ 47.7	 ▲ 44.9	 ▲ 35.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 2.4	 △ 8.0	 ▲ 5.5	 ▲ 8.3	 △ 20.0
CCI—LOBO	 △ 12.6	 △ 17.4	 △ 11.0	 △ 14.9	 △ 16.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.9	 △ 4.0	 ▲ 16.6	 ▲ 29.1	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 14.8	 ▲ 10.2	 ▲ 11.5	 ▲ 22.4	 ▲ 14.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

全国の業況
業況DIは、6ヶ月ぶりに改善。先行きは期待感みられるも、慎重な見方続く

1月の全産業合計の業況DIは、▲25.9と、前月から+3.8ポイントの改善。特に、都市部での回復が全体を押し上げた。外国人観光客の増加や高付加価値商品の需要の底堅さなどを背景に売上増がみられたほか、製造業では、国内向けの受注減を海外向けで補ったとの声が聞かれる。また、業種を問わず、足元の原油安が採算改善に寄与している状況も伺える。他方で、生産・消費の回復に力強さを欠く中、仕入などコスト増加分の価格転嫁に向けた交渉が難航している中小企業も多く、昨年秋季以降の足踏み状況からは脱していない。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5（今月比+2.4ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。中小企業においては、経済対策による景気下支えのほか、原油安を受けて、企業の採算好転や家計負担の緩和に伴う消費持ち直しなどへの期待

待感が伺える。他方、消費者の節約志向が根強い状況に変わりはなく、売上回復のめたつきを懸念する企業もみられる。また、原材料などの仕入コストが高止まりする中、価格転嫁が進んでいないとの指摘も多く、先行きへの確信が持てないことから、慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「受注は堅調だが、先行きが不透明なため、採用や投資に積極的になれない」（一般工事業）、「受注の伸び悩みから今年度予定していた設備投資を延期・中止する取引先が始めており、経営への影響が心配」（一般工事業）、「小規模のリフォームや修繕工事はあるものの、新築などの大型案件が乏しい状況が続いている」（建築工事業）

【製造業】「取引先が生産の一部を中国から国内に切り替えた。受注はできたが、単価が低く、業績改善につながっていない」（衣料品製造業）、「寺社用の瓦などの受注が安定しているほか、原油安が追い風となり、採算も好

転」（建設用粘土製品製造業）、「国内の需要は鈍いが、産業用ロボットシステムなど海外向けの受注が伸びている」（電気機械器具製造業）

【卸売業】「取引先から今夏向け商品の値上げ通知があったものの、価格転嫁の目途が立たず、採算悪化が懸念される」（衣料品卸売業）、「仕入コストの増大に伴い、販売価格を1割ほど引き上げたいが、取引先との交渉が難航」（食料品卸売業）、「既存事業が堅調に推移。さらなる業績拡大のため、新規事業の立ち上げに取り組み始めた」（塗料卸売業）

【小売業】「足元の売上は伸び悩んでいるが、春節を控えており、中国や台湾からの観光客による押し上げが期待される」（総合スーパー）、「高付加価値商品の人気は底堅いものの、日用品などへの支出を抑制する傾向も強まっており、二極化している」（百貨店）、「強い寒波の影響により、天候不順が続いたことから、客足が遠のいた」（商店街）

【サービス業】「技術職の不足が深刻。従来の取引先からの受注で手一杯であり、新規の顧客開拓ができない」（ソフ

トウェア業）、「地元企業の従業員を中心に利用客が増加。また、ウイスキー人気の高まりから、一部の商品の仕入が困難になっている」（飲食店）、「茶道や祭など、日本文化の体験を目的に訪れる外国人観光客が増加。ニーズに応えるための企画を検討する」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲20.5	▲4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲20.0
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
見通し	▲23.5	▲16.7	▲13.5	▲33.5	▲43.4	▲14.9